【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成19年2月1日(2007.2.1)

【公表番号】特表2006-509615(P2006-509615A)
【公表日】平成18年3月23日(2006.3.23)
【年通号数】公開・登録公報2006-012
【出願番号】特願2005-508324(P2005-508324)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　17/02　　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　17/16　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　17/02
Ａ６１Ｂ　17/16

【手続補正書】
【提出日】平成18年12月7日(2006.12.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ．閉位置および開位置を有した開創器本体であって、閉じられた開創器本体を開創すべき領域内に配置することを容易にするために、閉位置はほぼ直線的な形状となっており、かつ、前記開位置は前記開創すべき領域内において対応した隣接椎弓根の間の距離よりも大きい、または、それよりもほんの少しだけ大きい作業領域を提供し、さらに、２つの細長い溝部を有する、開創器本体と、
ｂ．対応して隣接する各椎弓根に取り付けるための１対のペディクルねじと、前記ねじの長手方向軸に関して円錐を画定する運動範囲を有するように、それぞれのペディクルねじと多軸的に係合する１対のガイド部材と、を備え、それぞれのガイド部材は、前記開創器本体において対応する溝部を貫通することができるに充分な長さを有しており、各ガイド部材は、前記開創器本体を前記連結したペディクルねじの端部上方に引き下ろすときに使用するための連結した取り付け部材を有しており、
ｃ．前記開創器本体は、単一の部片から形成され、前記閉位置から前記開位置までの動きを可能にする一体ヒンジを有し、前記開位置にある場合は前記作業領域を完全に取り囲み、前記開創器本体の周長が、前記閉位置と前記開位置とのいずれの場合もほぼ同じである、開創器システム。
【請求項２】
前記開創器が開位置にある場合に、前記手術空間の底部にわたる網をさらに備え、前記網は所望の領域では除去することができ、他の領域では不要な組織が手術領域内に侵入することを防止することができる材料で形成されている、請求項１に記載の開創器システム。
【請求項３】
手術野内で解剖学的要素を開創するために使用することができる材料で形成された少なくとも１つのフィンガをさらに備える、請求項１に記載の開創器システム。
【請求項４】
ａ．閉位置および開位置を有し、閉じられた開創器本体を開創すべき領域内に配置することを容易にするために、閉位置においてほぼ直線的な形状となる開創器本体と、

ｂ．椎弓根に取り付けるための１対のペディクルねじと、
ｃ．ガイド部材が前記ねじの長手方向軸に関して円錐を画定する運動範囲を有するようにそれぞれペディクルねじに多軸的に係合する１対のガイド部材と、を備える、開創器システム。
【請求項５】
ａ．閉位置および開位置を有し、本体の周長が前記閉位置と開位置とのいずれの場合もほぼ同じであり、前記本体が複数のヒンジを備えて本体が前記開位置と閉位置の間で移動することができるようになされた開創器本体と、
ｂ．椎弓根に取り付けるための１対のペディクルねじと、
ｃ．前記ねじの長手方向軸に関して円錐を画定する運動範囲を有するようにそれぞれペディクルねじに多軸的に係合する１対のガイド部材と、を備える、開創器システム。
【請求項６】
前記開創器本体が単一部片から形成される、請求項５に記載の開創器システム。
【請求項７】
ａ．第１のガイド受け溝部に結合された第１の組織保持壁と、
ｂ．前記第１の組織保持壁に対して移動可能に結合された第２の組織保持壁と、を備える開創器。
【請求項８】
それぞれ前記保持壁がほぼ平坦な側面を有する、請求項７に記載の開創器。
【請求項９】
前記第１および第２の保持壁が互いに入れ子である、請求項７に記載の開創器。
【請求項１０】
前記保持壁の少なくとも１つが湾曲した底縁部を有する、請求項７に記載の開創器。
【請求項１１】
前記保持壁の少なくとも１つが順応性のある底縁部を有する、請求項７に記載の開創器。
【請求項１２】
前記第１および第２の保持壁を結合するヒンジをさらに備える、請求項７に記載の開創器。
【請求項１３】
前記保持壁を互いに離して保持する機構を有するフレームをさらに備える、請求項７に記載の開創器。
【請求項１４】
前記第１のガイド受け溝部がスロットを含む、請求項７に記載の開創器。
【請求項１５】
第２のガイド受け溝部をさらに含み、両方のガイド受け溝部が前記フレーム内に配置されている、請求項１４に記載の開創器。
【請求項１６】
前記第１のガイド受け溝部の少なくとも１つにスロットが設けられた、請求項１５に記載の開創器。
【請求項１７】
前記開創器の少なくとも一部が実質的に透明である、請求項７に記載の開創器。
【請求項１８】
前記保持壁の端部に結合する網をさらに備える、請求項７に記載の開創器。
【請求項１９】
前記第１の保持壁の端部から延びる取り外し可能な複数のフィンガ突起部をさらに備える、請求項７に記載の開創器。
【請求項２０】
請求項７に記載の開創器を備え、第１のガイドが、一端で前記第１のガイド受け溝部内に受けられ、他端で骨の第１の領域内に挿入される大きさおよび寸法である、開創器シス

テム。
【請求項２１】
前記第１のガイドがねじによって骨に対して定位置に保持される、請求項２０に記載の開創器システム。
【請求項２２】
前記第１のガイドと協働して、前記フレームを前記骨に対して定位置に保持する際に、その補助を行うためのクランプまたはナットをさらに備える、請求項２０に記載の開創器システム。
【請求項２３】
前記開創器が前記第１のガイド受け溝部から間隔をおいて配置された第２のガイド受け溝部を有し、一端が前記第２のガイド受け溝部内に受けられ、他方の端部が骨の第２の領域内に挿入される大きさおよび寸法の第２のガイドをさらに備える、請求項２０に記載の開創器システム。
【請求項２４】
取っ手および勾配をつけた壁を有する拡開器をさらに備える、請求項２０に記載の開創器システム。